

秋田公立美術大学研究紀要の執筆要領

— 横書き原稿作成の手引き —

秋美 太郎

本文が日本語の論文には、同一言語の抄録（Abstract）を、文字数 300-400 字程度で記載します。書き出しは1字下げます。途中改行は不要です。段落は分けません。抄録を書くときは、論文において伝えたい内容を重点的に記載します。その専門分野で常識になっているような内容は排除し、できるだけ簡潔で明確な表現をします。抄録の中では一人称代名詞および類似の主語（“当研究所”など）は使いません。本文の図・表などを引用してはなりません。本文における主題の取り扱い方を明らかにするため、抄録の文章には、研究や調査などの前提（経緯、背景、定義）と、目的や主題の範囲、方法（用いた原理、理論、条件、対象、材料、手段、方法、手順）について記載します。研究の目的に沿い、“～の現況を調査した”、“～の方法を用いて分析した”、“～を理論的に考察する”等の文章に続けて、得られた結果や、考察の概要・要約を記述します。ここまでで、ちょうど 415 文字です。

This Is the Title: This Is the Subtitle

AKIBI Taro

The abstract is a concise and clear summary of a research article. Others can use it as an overview. It should be 150-200 words and written in single paragraph.

The abstract is a concise and clear summary of a research article. Others can use it as an overview. It should be 150-200 words and written in single paragraph.

The abstract is a concise and clear summary of a research article. Others can use it as an overview. It should be 150-200 words and written in single paragraph.

The abstract is a concise and clear summary of a research article. Others can use it as an overview. It should be 150-200 words and written in single paragraph.

The abstract is a concise and clear summary of a research article. Others can use it as an overview. It should be 150-200 words and written in single paragraph.

Total 203words

キーワード：論文書式ガイド、研究論文、学術論文

Keywords: Paper format guide, Research paper, Scholarly article, Academic article

1 はじめに

本稿は投稿前に必ずお読みください。ここでは主に横書き形式で作成する場合の研究論文等の執筆要領、原稿の提出方法ならびに校正等を説明します。縦書き論文は版面の書式を参考とし、フォント等は本稿の指定に準じて作成してください。また、本稿自体が横書きのテンプレートを兼ねており、執筆時にご活用いただくことができます。

2 基本事項

この章では、4つの投稿区分（研究論文、研究報告、実践報告、制作報告）に共通する基本的な執筆要項を述べます。

2.1 ページレイアウト

すべての投稿区分において、ページレイアウトは共通です。詳細は次のとおりです。

- (a) 用紙 A 4 サイズ、縦置き
 - (b) 余白 上下 30mm、左右 25mm
 - (c) ノンブル フッター中央
 - (d) 柱 記載あり、記載内容は「秋田公立美術大学研究紀要第 1 号」に準じる
 - (e) 版面（横書き）
 - 標題・抄録等 1 段組み
 - 本文 2 段組み、1680 文字
(20 文字×42 行× 2 段)
 - 注・参考文献 2 段組み、——文字
(フォントサイズ変更)
 - (f) 版面（縦書き）
 - 標題・著者名等 1 段組み
 - 本文 2 段組み、1550 文字
(31 文字×25 行× 2 段)
 - 注・参考文献 2 段組み、——文字
(フォントサイズ変更)
- なお、縦書き論文については、論文タイトル（日本語・英語）、抄録（日本語・英語）、著者名（日本語・英語）、キーワード（日本語・英語）を、別に横書きの書式

で

作成してください。この抄録は縦書き論文の末尾に掲載されます。

2.2 フォント等

フォントの種類や太さ、大きさ、段組みのスタイルなどは、原稿の構成要素によってそれぞれ異なります。要素ごとの詳細は次のとおりです。

(1) 日本語タイトル

- (a) フォント MS ゴシック
- (b) 太さ 太字
- (c) サイズ 14 ポイント
- (d) 段組み 1 段

(2) 日本語サブタイトル

- (a) フォント MS 明朝
- (b) 太さ 標準（普通）
- (c) サイズ 12 ポイント
- (d) 段組み 1 段

(3) 日本語著者名

- (a) フォント MS 明朝
- (b) 太さ 標準（普通）
- (c) サイズ 12 ポイント
- (d) 段組み 1 段

(4) 日本語抄録

- (a) フォント MS 明朝
- (b) 太さ 標準（普通）
- (c) サイズ 10 ポイント
- (d) 段組み 1 段
- (e) 字下げ 全角 1 字分

(5) 英語タイトルとサブタイトル

- (a) フォント Times New Roman
- (b) 太さ 標準（普通）
- (c) サイズ 16 ポイント
- (d) 段組み 1 段

(6) 英語著者名

- (a) フォント Times New Roman
- (b) 太さ 標準（普通）
- (c) サイズ 12 ポイント
- (d) 段組み 1 段

(7) 英語抄録

- (a) フォント Times New Roman
- (b) 太さ 標準（普通）

- (c) サイズ 10 ポイント
- (d) 段組み 1 段
- (e) 字下げ 半角 5 文字分
- (8) 日本語キーワード
 - (a) フォント MS 明朝
 - (b) 太さ 標準 (普通)
 - (c) サイズ 10 ポイント
 - (d) 段組み 1 段
- (9) 英語キーワード
 - (a) フォント Times New Roman
 - (b) 太さ 標準 (普通)
 - (c) サイズ 10 ポイント
 - (d) 段組み 1 段
- (10) 見出しタイトル (章・節・項)
 - (a) フォント MS 明朝
 - (b) 太さ 太字
 - (c) サイズ 10 ポイント
 - (d) 段組み 2 段
- (11) 本文
 - (a) フォント MS 明朝
 - (b) 太さ 標準 (普通)
 - (c) サイズ 10 ポイント
 - (d) 段組み 2 段
- (12) 注および参考文献
 - (a) 和文フォント MS 明朝
 - (b) 英文フォント Times New Roman
 - (c) 太さ 標準 (普通)
 - (d) サイズ 9 ポイント
 - (e) 段組み 2 段
- (13) 図・表の番号およびキャプション
 - (a) フォント MS 明朝
 - (b) 太さ 標準 (普通)
 - (c) サイズ 9 ポイント
- (14) 本文、注記および参考文献中の英数字、数式、記号等
 - (a) 和文フォント MS 明朝
 - (b) 英文フォント Times New Roman
 - (c) 一桁の数字 全角
 - (d) 二桁以上の数字 半角
(例: 2014 年 8 月 31 日)
 - (e) 数式 半角
 - (f) 欧文文字 半角

- (g) 和文で用いる記号 全角
- (h) 英文で用いる記号 半角

2.3 用字用語

文字や語句、記号、符号、単位、学術用語等の表記については、標準化関連国際組織および国内組織による基準に従うものとします。

また、以下の項目を守って原稿を作成してください。

(1) 数字

原則として算用数字 (アラビア数字) を使用します。

(2) 特殊文字等

特殊文字や環境依存文字 (機種依存文字) は使用できません。

(3) 文字修飾

下線や強調太字等の使用は、できるだけ避けてください。

(4) 句読点

(a) 句点

和文 「。」

英文 「. 」

(b) 読点

和文 「、」

英文 「, 」

(c) 全角/半角

和文の句読点は全角 1 文字分です。

英文の句読点は、半角記号の後に半角スペースを入れます。

3 原稿構成

研究論文と研究・実践・制作報告とは、原稿構成が異なります。この章では、論文と報告のそれぞれの原稿構成を、箇条書きにして列挙します。構成要素には必須事項と任意事項があります。必須事項の記載漏れがないよう、原稿完成時に再確認してください。

3.1 研究論文

研究論文の原稿構成は次のとおりです。

- (a) 必須：論文タイトル（日本語）
- (b) 必須：著者名（日本語）
- (c) 必須：抄録（日本語）
- (d) 必須：論文タイトル（英語）
縦書き論文は抄録ページのみ記載
- (e) 必須：著者名（アルファベット）
縦書き論文は抄録ページのみ記載
- (f) 必須：抄録（英語）
- (g) 必須：キーワード（日本語）
- (h) 必須：キーワード（英語）
- (i) 必須：本文（日本語）
図版を含む、末尾に謝辞を含む
- (j) 任意：注（日本語）
文章を補足する補注と、引用元を明示する引用文献注を、分けずに一連番号を与えて記載する。
- (k) 任意：参考文献（日本語）

3.2 研究報告

研究報告の原稿構成は次のとおりです。

- (a) 必須：論文タイトル（日本語）
- (b) 必須：著者名（日本語）
- (c) 必須：抄録（日本語）
- (d) 任意：論文タイトル（英語）
- (e) 任意：著者名（アルファベット）
- (f) 任意：抄録（英語）
- (g) 必須：キーワード（日本語）
- (h) 任意：キーワード（英語）
- (i) 必須：本文（日本語）
図版を含む、末尾に謝辞を含む
- (j) 任意：注（日本語）
文章を補足する補注と、引用元を明示する引用文献注を、分けずに一連番号を与えて記載する。
- (k) 任意：参考文献（日本語）

3.3 制作報告

制作報告の原稿構成は次のとおりです。

- (a) 必須：論文タイトル（日本語）
- (b) 必須：著者名（日本語）
- (c) 必須：本文（日本語）
図版を含む、末尾に謝辞を含む

- (d) 任意：注（日本語）

文章を補足する補注と、引用元を明示する引用文献注を、分けずに一連番号を与えて記載する。

- (e) 任意：参考文献（日本語）

4 構成要素の詳細

この章では、原稿の各構成要素を具体的に説明します。細かいルールがありますので、よくお読みください。

4.1 標題部

4.1.1 タイトル

タイトルには、研究内容を的確に示す用語を使用します。原則として略語、略称は用いません。英文タイトルの場合も同様です。

連載の場合は、タイトルの末尾にシリーズ番号を付し、本稿の内容を示すサブタイトルを付けます。

4.1.2 サブタイトル

原則として1個だけ付することが可能です。

和文の場合は、サブタイトル前後に全角ダッシュ「—」を付けます。英文の場合は、タイトルとサブタイトルを、半角コロンと半角スペース「:」で結びます。

4.1.3 著者名

姓名の間にスペースを入れます。和文表記の場合は全角、アルファベット表記では半角です。なおアルファベット表記の場合は、姓の文字全てと名の頭文字を大文字で記します。

4.2 抄録

本文を読まなくても論文全体の要点を的確に掴むことができるよう、本文と同一の言語で抄録を記載します。抄録の具体的な書き方については、この執筆要領の抄録部分で詳細に説明していますので、そちらをお読みください。

また、ウェブで公開することを念頭に、英文抄録も付記します。研究論文以外の投稿区分においては、英文抄録の記載は必須ではありません。しかし、抄録とは原文を読む必要性の判断に利用されたり、学術情報検索時の手がかりとして活用されたりするものですから、抄録があれば論文の利用頻度は高まります。各自、必要に応じて付記してください。

4.3 キーワード

キーワードは、必ずしも論文に含まれる用語である必要はなく、論文内容を適切に表す用語を選びます。

キーワードの役割は抄録と同様です。論文が長期にわたって広く利用され続けるためには、キーワードの付与は必須です。そのため日本語と英語の両方で、必ず記載するものとします。

4.4 本文

4.4.1 見出し

見出しの展開は章・節・項までとします。表記方法等は次のとおりです。

(1) 見出しのスタイル

見出しは太字で表示し、括弧や下線は使用しません。

(2) 見出し番号

見出しに番号を付す場合は、算用数字によるポイントシステムを用いてください。

(2) 細項および箇条書き

項以下に細項を設ける場合は、括弧付きの数字を用いて細分してください。

また、文章のなかで箇条書きをするときには、細項を示す番号との混同を避けるため、数字以外の文字や記号を用いてください。丸数字等の環境依存文字は使用できません。以下に例を記します。

例 (a)

(b)

(c)

(3) 見出しの参照

見出しを本文中で参照するときは、

“2. 2で述べた . . .” という書き方ではなく、“2. 2節で” というように、章・節・項の文字を明示します。

(4) 見出しの修正

冊子全体の体裁を整えるため、見出しにポイントシステム以外を用いた原稿については、校正段階で修正します。

4.4.2 文章

研究論文は、同分野の研究者が検証できるよう執筆されており、研究の目的や学術上の意義などが明確に伝わること。

4.4.3 図・表

(1) 図・表のサイズ

図・表の幅は、版面の左右に揃えた幅か（図1参照）、または1段の左右の端を超えない幅（図2、表1参照）とします。図・表の高さは任意です。

(2) 図の挿入

本文中に挿入される図（写真・グラフを含む）には、“図1 ○○○○” “図2 ○○○○” という形式で、本文に出てくる順に振られる一連番号と各々のキャプションを、図の下に記載します。なお、挿入する図には「執筆者撮影」等、出典を明記してください。図版キャプションの表記方法については、別に記します。

する行為、いわゆる“孫引き”をしてはいけません。

文章中で引用箇所を示すには、以下のいずれかの方法を用いてください。

(1) 短い文章の引用

引用したい原文が和文の場合はかぎ括弧「」、欧文の場合は二重引用符“”で括って正確に記載し、引用箇所の末尾右肩に引用番号を付します。

(2) 長い文章の引用

前後を1行空け、段落を下げて、引用したい原文を正確に記載し、末尾右肩に引用番号を付します。

(3) 原文を要約して引用

趣旨が変わってしまうことのないよう、十分に注意して記載し、末尾右肩に引用番号を付します。

4.5.2 注

注の種類には、文章を補足する補注と、引用元を明示する引用文献注がありますが、それらを分けずに一連番号を与えて記載するものとします。なお、通し番号に（）は付けません。

また、注は脚注（同一ページ内に記載する方法）ではなく、文末注（本文の最後にまとめて記載する方法）とします。見出し番号は不要です。

注の表記方法については、別に記します。

4.6 参考文献

部分的な引用や参照ではなく、全般的にわたって論文執筆の参考にした文献は、論文の最後に一括して記載します。表記方法については、別に記します。

5 原稿の提出方法について

投稿要綱に従い、原稿の電子データをメールで、また見本のために印刷した原稿を1部図書館へ提出してください。

6 校正について

校正とは、誤字脱字や誤植の訂正、図表の位置の調整、全体の体裁などをチェックする作業のことです。内容の変更や、文章の推敲は、原則としてできません。

原稿作成時の誤字、脱字、変換ミス、スペルミス、改行ミスなどを確認のうえ訂正してください。印刷業者には電子データで原稿を渡しますので、誤って特殊文字等を使用していた場合には、校正刷りに文字化けが見つかることもあります。できるかぎり丁寧にチェックしてください。

日本工業規格（JIS Z8208）に印刷校正記号が定められています。

8 おわりに

この執筆要領は、本学研究紀要第の投稿原稿、S I S T（科学技術情報流通技術基準）および他大学の執筆要領を参考にして作成したものです。

紀要編集部会は毎年必ず、昨年度の投稿要綱および執筆要領を見直し改訂して、当年度版を発表します。

謝辞 例1

本執筆要領の作成にあたりご協力頂きました〇〇〇〇〇様に深く感謝申し上げます。

謝辞 例2

本研究はJSPS 科研費（12345678）の助成を受けて実施しています。

図版キャプションの表記方法（参考）

作者名《作品名》制作年、メディア、サイズ、現存地、所蔵者（出典）

例 藤田嗣治《眠れる女》1931 年、カンバスに油彩、74.4×125.0cm、秋田、公益財団法人平野政吉美術財団蔵

1 サイズの記述法

縦×横×高さ（あるいは径）cm

2 メディアの記述法

絵画＝支持体＋絵具

例 紙に水彩（水彩・紙）、絹本着色

版画＝版の技法

例 エッチング、木版多色刷

印刷（ポスター等）＝刷りの技法

例 コロタイプ印刷、オフセット印刷

写真＝プリント技法

例 ゼラティン・シルヴァー・プリント、ラムダ・プリント

映像＝記録メディア

例 16mm フィルム、ビデオ

彫刻、立体＝素材〔時に技法〕

例 ブロンズ、寄木造

陶芸・漆芸＝技法＋器形〔これがそのままタイトルとなることもある〕

例 青磁平皿、蒔絵手箱

テキスタイル＝技法＋素材

例 型染・綿・反応性染料、綴織・綿糸・ウール紙

その他

例 インスタレーション、ミックスド・メディア

3 出典＝どの本あるいはウェブサイトからか

版地：出版社名、出版年、ページ数の順に記載します。

12 洋雑誌論文は著者名、“論文タイトル（ダブルクォーテーション）”、雑誌名（イタリック）、巻号等、ページ数を記載します。

13 洋書で直前の引用に同じ本が記載されている場合は Ibid. と、間に別の注が入っている場合には op.cit. と省略して記載し、ページ数等の必要情報を記載します。

14 作品名（絵画、彫刻、インスタレーションなど）は《作品名》と二重山括弧で記載します。

15 上記は一般的な表記方法に過ぎず、所属学会の規定によって形式は異なります。学会の規定に準じて注を作成することもできます。

参考文献

1 ○○○

2 ○○○

3 ○○○

注の表記方法（参考）

1 秋美太郎、「秋田の美術」、『現代日本の美術』、秋田出版社、2015 年、p. 150

2 同上書、p. 25

3 Taro Akibi, *The Contemporary Art*, Akita: Akita Press, 2015, p.5

4 Ibid., pp.7-10

5 秋美、前掲書、pp. 162-4

6 Akibi, op.cit., p.35

7 ページが複数に渡る場合は pp. と記載します。

8 和書の引用は著者名、「論文等のタイトル」『掲載誌名や書名』、出版社、出版年、ページ数の順に記載します。

9 学会により出版年を著者名の後に記載するか、本文中の括弧内に文献情報を示し、巻末に文献表を記載する場合があります(秋美太郎 2015)。

10 和書で同じ本が直前の注に記載されている場合、同上（書）と省略してページ数を記載します。間に別の注が入っている場合は前掲（書）と省略してページ数を記載します。

11 洋書の引用は著者名、書名（イタリック）、出